

## [課題2]

# アイヌ民族に関する学習を窓口人間尊重の意識を高める研究の推進

### ①児童生徒・学校の実態

・市立札幌清田高等学校（以下、清田高校）には“Think Globally, Act Locally”（「地球規模で考え、地域で行動する」）をモットーとするグローバルコースが設置されている。

本研究授業は、グローバルコース3年次を対象に実施。

・グローバルコースの生徒は各年次で開講されている国際理解科目（学校設定科目）等を通して、国内外の様々な文化や社会問題を探究する。

・グローバルコース3年次の生徒は、学校設定科目「ワールド・スタディズ」において、「平和な社会で活躍する『地球市民』としての資質を身につける」を学習目標に、地球市民（グローバルシティズン）として、地域や世界で活躍する自身の在り方を探究している。

### ②ねらい（目標）

・先住民族の社会と文化が解体させられる過程に向き合い、地域や世界の民族問題を自分事化し、人間尊重の意識を高め、持続可能な多文化共生社会の実現に向けて何が必要かを考察する。

### ③活動内容

・1時間目...アイヌ文化を知る、学んできた歴史がマジョリティである和民族中心であることを考察  
アイヌと世界の先住民族の現状を考察

- ・11月13日（1時間目）
- ・12月1日（2時間目）
- ・12月8日（3時間目）

・2時間目...結城幸司さん（札幌アイヌ協会代表）の講話

・3時間目...「アイヌ先住権訴訟」のロールプレイ、まとめ



結城さんの  
来校



ロールプレイ  
の様子



## [課題2]

# アイヌ民族に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

### 3時間目のロールプレイの指導案（一部抜粋）

本時の展開（ 3 / 3 ） 本時のねらい 地域や世界の民族問題を自分事化し、持続可能な多文化共生社会の実現に向けて何が必要かを考察する。			
過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料・講師
導入 (3分)	前回の講話の振り返り 「マイノリティ(アイヌ)の視点に立って考えると、マジョリティによってアイヌの権利が歴史的に侵されていることを学びました。また、現在でもアイヌの権利回復が国際的に見ても不十分であると言われていることを学びました。」	※5人1グループを形成。 アイヌ権利回復は不十分で、日本は世界的にも先住権問題に課題があることにふれる。 ※ワークシート①の配布	
展開 ① (25分)	「本日はアイヌに関わる現代のアイヌに関わるとある裁判についてグループで考えてみたいと思います。」 「以下の『アイヌ民族先住権訴訟』の概要について読んでください。」 「今からグループに5種類のカードを裏向きで配ります。一人一枚カードを受け取ったら表向きにして自分の役を確認してください。『札幌地方裁判所裁判官』役の人が司会役になって下さい。それぞれの立場の役になりきって、『アイヌの河川における鮭の漁業権を認めるかどうかの是非』について議論して下さい。」	※2024年の実際の裁判の内容についてはふれない。	

### 授業後の検討会について

- ・本研究授業後、授業参観者が集まり、検討会を行った。
- ・検討会には本校の教員のみならず、市内の小中学校教員、大学教員、社会科教員を目指す大学生など、計20名程が参加した。
- ・吉田指導主事の司会のもと、学校長が授業の講評を行い、授業者(立田)が授業の意図や授業概要を説明したあと、感想交流や助言の時間をとった。
- ・検討会では、
  - 「授業手法について(ロールプレイの授業の在り方)」
  - 「本授業でのICT機器の活用の可能性」
  - 「小・中学校でのアイヌ民族学習の実態を踏まえた高校での授業の在り方」
  - 「教科横断をしながらアイヌ民族学習をどのように行えるか」
 など、様々な意見交流が展開された。

## [課題2]

# アイヌ民族に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

### ④成果

【踏み込んだアイヌ民族の学習を実施】

・高校の「歴史総合」や「公共」などの授業においてさえアイヌ民族の先住権問題を取り扱う機会が少ない。その中で、世界の先住権問題も絡めながら、学校設定科目においてアイヌ民族の先住権問題について考える機会を設けることができた。

【現在進行形の問題について目を向ける】

・生徒は地元の札幌で2024年に行われたばかりの「アイヌ民族先住権訴訟」に関してほとんど知らない状態(授業前アンケートでは90.9%の生徒が「知らない」と回答)であったが、「アイヌ民族先住権訴訟」を通じて「自分たちも考えなければいけない問題である」など思考を揺さぶられたようである。生徒はアイヌ民族の現状を学ぶことで、人間尊重の意識を体験的に高めることができたと考えられる。

### ⑤課題

【先住権問題を考察する手法】

・「マイノリティ（アイヌ民族）」が現行法の制定に携わっていないにもかかわらず、マジョリティ（国や道）が制定した法令や規則によって先住民権が制限されている片務的な側面に視点をおくことで充実した活動となったのではないかと考えられる。

【マイノリティへの配慮】

・アイヌ民族とマジョリティ和民族の生徒が、クラスに混在しているという状況を前提としたアプローチの方法について、より一層の授業者としての研鑽が必要だと考える。具体的には、生徒のプライバシー保護、特にアイヌ民族にルーツを持つ生徒への精神的負担がないかどうかをしっかりと考慮する必要がある。

### ⑥今後の取組の方向性

【コースにとらわれない取組】

・今回の研究授業はグローバルコースの学校設定科目で実施した。今後は近現代の歴史を学ぶ「歴史総合」等の科目で、コースにとらわれず、アイヌ民族に関わる取組を検討する。

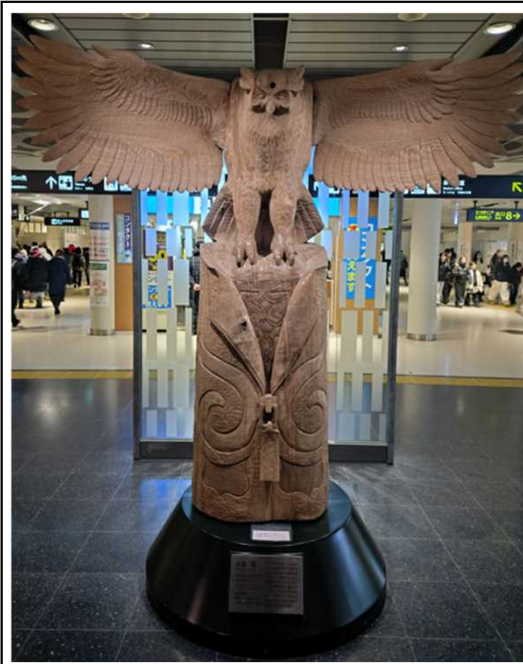
【マジョリティが「マジョリティ性を意識する構成】

・マジョリティの和民族の多くは、アイヌ民族と同じ性質のアイデンティティを問われたり悩んだりせずに行われる「無自覚の特権」に気付かせる、一歩踏み込んだ学習活動を授業に取り入れることはできると考える。それにより、より持続可能な多文化共生社会の在り方について考えを深められると考えられる。

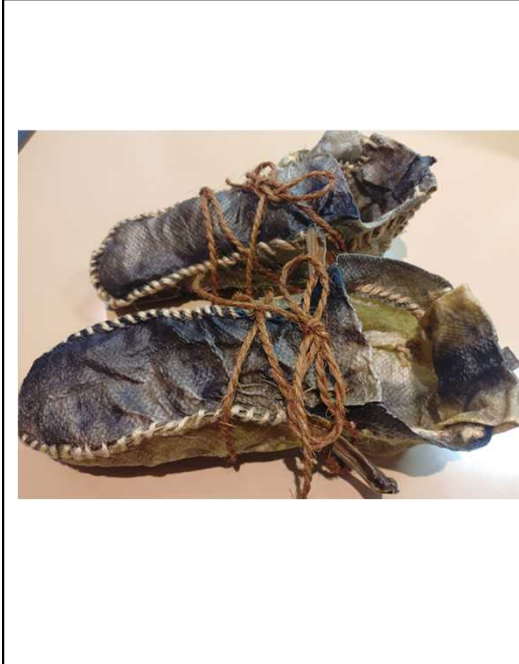
## [課題2]

# アイヌ民族に関する学習を窓口に人間尊重の意識を高める研究の推進

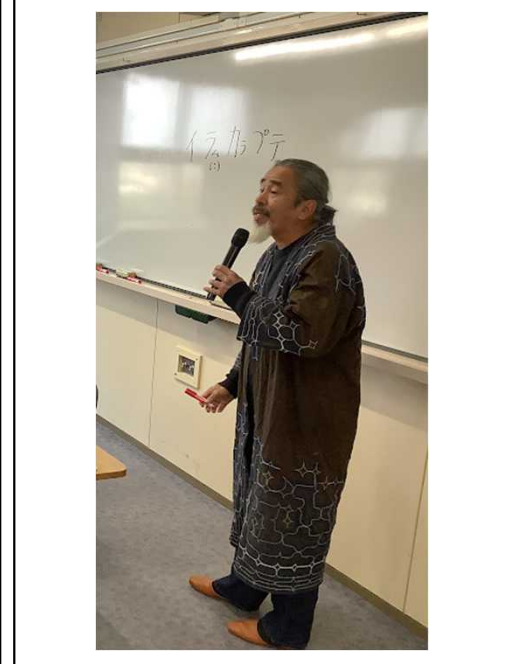
## ⑦参考資料



「ミナパ」のフクロウ像  
・授業の導入で活用。多くの生徒が見たことがある。



鮭皮の靴  
・札幌市豊平川さけ科学館より鮭皮の靴を借りる。



結城幸司さんの講話  
・結城さんに来校していただき、講話をしていただく。

- ・『アイヌ民族・先住民族の現在』東洋出版社
- ・『イランカラプテ』明石書店
- ・『最新アイヌ学がわかる』エイアンドエフ
- ・『現代につなぐ歴史授業デザイン』明治図書出版株式会社
- ・令和5年「北海道アイヌ生活実態調査」の実施結果について（概要）

【主な参考資料・文献】  
・「北海道アイヌ生活実態調査」は生徒にも提示。